

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02109

研究課題名(和文)釜ヶ崎史料を基点とした地域情報アーカイブの実践的研究

研究課題名(英文)Kamagasaki Archives: Practical Study on Historical Records and Local Materials.

研究代表者

櫻田 和也 (Sakurada, Kazuya)

大阪公立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研究員

研究者番号：70555325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：近現代を通じて「社会問題」の集積点として注目された大阪市西成区の旧字・釜ヶ崎に焦点をあて、地域史料アーカイブの構築を目指した。研究期間中は近現代資料集刊行会『昭和期の都市労働者 大阪：釜ヶ崎・日雇』の監修に注力し戦後編前期の配本を実現した。これは既刊の戦前期編につづく戦後前期の行政文書に加えて、運動史上の画期をなした全港湾建設支部西成分会の結成(1969年)から釜共闘・現闘委(1972年)結成期に至る期間の公表可能な一次資料を精選したものである。しかし刊行物に収録できたのは収集資料の一部に過ぎず現在進行形の課題も未だ多い。これを後継の研究課題に引き継ぐこととし、ここまでの進捗を学会報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

釜ヶ崎については戦後の社会病理学および労働経済学以来、学術的立場の変革を企てた解放社会学に至るまで、先行研究の蓄積は豊富にあった。しかし地域は今、あいりん総合センターの建て替え計画に至り「寄せ場」空間としての転換期をむかえる一方で、草の根の膨大な未公表史料が忘却・劣化・損失・散逸の危機に瀕している。この研究では、これらの「遺産」を未来に資する釜ヶ崎史料アーカイブとして目録化に着手し、戦後編前期までの複製資料集を公刊することができた。さらに、戦後史の記録としての古写真アーカイブは文書資料の複製にもまして社会的関心がたかく、歴史的意義を有する史料として地域で承継することが期待されている。

研究成果の概要(英文)：We aim to build up "Kamagasaki Archives" based on historical records and materials left in the area of Nishinari Ward, Osaka City, which has been a focal point of "Social Problems" throughout the modernization. During the research, we supervised and edited the collection as "Urban Workers in the Showa Era: Osaka, Kamagasaki, Daily Laborers" which compiled the first half of the postwar period. In addition to official documents after the World War II period continued from the pre-war edition that have already been published. This is an elaborated selection of locally available primary sources including the formation period of Zenkouwan Nishinari Branch (1969) which was an epoch in the history of the movement during the preparation for EXPO'70, and leading up to the formation of Kamagasaki Kyoutou Kaigi (1972). There are, however, still many materials left and various issues to be considered so that we made some progress reports at conferences and pass them on to our next project.

研究分野：社会学

キーワード：釜ヶ崎 社会問題 寄せ場 近現代史 アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

大阪市西成区、北東部の一角を占める旧字・釜ヶ崎は、都市の近代化を通じて「社会問題」のいわば集積点として、保健・衛生・犯罪・貧困・福祉・差別・暴動・労働・失業・住宅・野宿者問題など、あらゆる角度から断続的に社会的な注意を引きつけてきた。いま地域では歴大な歴史的資料が、しかし忘却・劣化・損失・散逸の深刻な危機にある。これらを蓄積し継承する釜ヶ崎史料アーカイブとして目録化することは焦眉の課題であった。

いわゆる「釜ヶ崎事件」(第一次暴動 1961 年)を原点として大阪万博に向けた 1970 年前後の都市整備に不可欠な労働力調達のため、大阪府・市・警察の三者が労働・民生・治安を分担した「あいりん体制」を確立する。これ以降に展開された日雇労働運動の組織化と、オイルショックそしてバブル崩壊と戦後二度におよぶ大不況のたび失業し、野宿者化せざるをえなかった人々の社会的諸実践は、また戦後日本の社会学にも無視できない衝撃を与えてきた。

たとえば青木秀男(1989)は、寄せ場を「解体地域」とし「労務者」を診断の対象とみなした 1960 年代以前の社会病理学を批判すると同時に、階級「底辺に沈殿した過剰人口」を運動主体とみない労働経済学に対して日雇労働者の生活現場からの研究を志向する。こうした 1980 年代半ばの研究動向を、八木正(1989)は同時代「傍観者の立場の研究から脱して実践的な諸課題に正面から取り組む学問を構築する方向性」として、学問的に重大な「地殻変動」をもたらすものと期待した。この系譜に連なる研究も、現在に至るまで途切れてはいない。しかし 1990 年代末の反失業闘争をへて 2000 年代に頻発した公園からの野宿者排除のあと、釜ヶ崎への眼差しは元「ホームレス」問題として、再び戦前の救貧施策以来の福祉的領分へと回帰した感がある。

はたして「地殻変動」とは何だったのだろうか? 研究グループでは、年配の元活動家等から託された大量の紙誌資料および写真・フィルム等の記録媒体、労働者と共同調査した研究者から学習会資料などを収集してきた。ここでの課題は、こうした史料批判を通じて寄せ場の研究史を再考し、また下層労働力を歴史の担い手として再発見しつつある世界的な研究動向に照らして、未来に資する地域アーカイブを構想することである。

2. 研究の目的

いま空間としての釜ヶ崎は、目下あいりん総合センターの建て替え計画に象徴されるように、かつてない転換期をむかえている。釜ヶ崎＝「寄せ場」を前提としてきた研究枠組みそのものがあらためて問われる所以である。他方、地域では散逸の危機に瀕する未公表資料群の取り扱いが課題となっていた。以上の客観的条件から、地域アーカイブの構築を基礎とした史料批判により「寄せ場」の研究史を再考し、かつて期待された「地殻変動」に正当な学史上の再評価を加えること、これを最終的な研究目的とする。

しかし大量の資料を適切な方法で収集保全の上、まずは歴史的相対化に資する「釜ヶ崎史料」アーカイブとして目録化に着手することが喫緊の課題であった。そこで当初から公表を前提に作成された紙誌資料をはじめ、公刊に支障ない一次文献については『昭和期の都市労働者：大阪・釜ヶ崎・日雇』の戦後篇に復刻し、近現代資料集刊行会からの復刻資料集『昭和期の都市労働者』シリーズの戦後大阪篇へ収録し、同時にいまだ慎重な検討を要する未公表資料の整理を具体的な目標とした。

さらにアーカイブ構築に不可欠な史料批判をふまえて、実践的研究の試みとして地域団体等と連携した市民学習会や写真企画展などの機会をもつことを予定した。集合的な地域の記憶を聴きとり史料を異なる角度から見ることで、学問的「地殻変動」の歴史的意義と限界を再考する契機とする。この延長線上に、グローバル労働史など世界的な研究動向への接続を目論む。

3. 研究の方法

手順としては、まず未公表資料群の収集・保全および選定につとめて再分類の上、目録の作成とメタデータ付与に着手した。これと併行して、公刊できる一次文献については『昭和期の都市労働者：大阪・釜ヶ崎・日雇』の戦後篇に復刻し、近現代資料集刊行会から配本する。

この集中的な作業を前提に、史料批判をふまえた実践的研究に取り組もうとした。ここでは「実践的な諸課題に正面から取り組む」ものと期待された「地殻変動」の学史上の再評価を課題として、ひらかれた市民学習会および写真企画展・フィルム鑑賞会等を実施する計画であった。こうした集いを媒介とすることで各人各様の経験から長らく黙して語らずにいた方々・出来事をふくめ、地域の人々の「記憶」にふれる対面インタビューの契機とする目論見である。

研究体制(専門・役割分担)および研究拠点は以下のとおりである。

研究体制

研究代表者：櫻田和也(社会学・調査史方法論) 情報基盤・記録媒体・地域アーカイブ

研究分担者：吉村智博(歴史学・近現代都市史) 史料批判・資料保全・復刻資料集編纂

原口剛(地理学・都市下層地誌) 史料分析・資料収集・対面聴きとり調査

研究拠点

主：大阪市立大学大学院文学研究科・都市研究プラザ（櫻田和也）

副：西成情報アーカイブ・大阪人権博物館（吉村智博）

神戸大学大学院人文学研究科（原口剛）

最終年度には研究成果をとりまとめて学会で分科会報告を行うことを予定した。

(1) 資料の収集と保全

具体的には、過去の経緯から拠点等に寄託された反失業連絡会資料（旧釜ヶ崎資料センターと「旅路の家」由来の資料群を含む）および釜ヶ崎日雇労働者組合（釜日労）資料、西成労働福祉センター元職員（上畑恵宣さん）写真記録に加えて、『定点観測・釜ヶ崎』作者（中島敏さん）から未公表写真多数を含むネガフィルム・アルバム 40 冊分の提供があった。

さらに各種の個人文書をはじめ、人生の「片付け」にさしかかる元研究者・活動家からは保有資料の取り扱いについて、研究グループでは断続的に相談を受けている。これらの資料は来歴により保存状態や分類方法がまちまちであるが、ある程度まで一律の規準による網羅的な把握と、その目録化を試みている。

またガリ版刷りのざら半紙など媒体の酸化による劣化を憂慮すべき状態の場合もままあり、迅速なデジタル化と中性紙文書箱に保管するなどの保全処置が課題である。写真フィルム等の記録媒体も酢酸セルロースの加水分解が進むと不可逆であるから、さしあたり閲覧用に高精細デジタル複製の上、現物は冷暗防湿庫等への収蔵が望ましい。

(2) アーカイブ構築および史料批判

研究期間中の感染症対策および寄託資料の増加に対する人手不足で、当初の計画には相当の妥協をよぎなくされた。しかし釜ヶ崎事件（1961 年）から全港湾建設支部西成分会（1969 年）および釜共闘・現闘委（1972 年）をへて釜日労の結成以前までに年代を限定して、まずは公開できる一次文献について精選の上、戦後の行政文書とあわせて近現代資料集の編纂にあたった。

未公表資料については、作成者名・出現人名・言及事項等の固有名詞の他、基本情報としての記録日時および写真等に地理情報を加えて、簡易目録の作成とメタデータの付与を試みた。今後のオンライン化を目指してデータベース仕様とアクセス制限のあり方を慎重に検討している。

これと併行して史料批判による研究を各自進めてきた。分担者の吉村智博は戦間期、昭和恐慌下の失業から総力戦体制における動員に至る過程に焦点をあてて学術論文を執筆した。原口剛は 1970 年代の政治的立場の相異や時局における対立にかかわらず、歴史的主体として出現した「流動的下層労働者」概念の集成的・理論的な用語法の生成に着目し、学会等の機会に問うた。代表者は両年代間をつなぐ通時的把握を目指して、戦前を回想した個人文書と 1950 年～60 年代「大阪社会学研究会」等の社会病理学的な調査資料を収集し、その分析にあたっている。

(3) 実践的研究による歴史社会学の構想

当初の案では西成情報アーカイブ展示スペースを活用した企画写真展、地域団体と連携した市民学習会フィルム鑑賞会などの実施を予定したが、感染爆発による緊急事態宣言下ほとんど不可能となった。人々が集い語らう場を媒介とすることで「想起」をうながし、忘れられた言葉あるいは見のがされた史実にふれる糸口をもとめ（語らざる人々を含む）集合的な地域の記憶をつむぐ試みは、したがって断念をよぎなくされた。

しかし何度かの一時的な路上写真展と数人へのインタビューに集中したことで、固有の資料にあらたな光をあて、かつて期待された学問的「地殻変動」とその地域史上のインパクトの深さ（具体的には戦後日本社会における矛盾の集積点としての釜ヶ崎、および寄せ場労働運動史における植民地主義への問い）を再考する契機となった。そこから労働者として街を撮りつづけた中島敏さんのフォトアーカイブ・解題サイトと抗日パルチザン回想記を翻訳した鈴木武さんの証言を同志社コリア研究叢書にまとめることができたのは、計画外の副産物である。

4. 研究成果

研究期間中最大の成果は、研究グループで監修し近現代資料集刊行会から復刻した『昭和期の都市労働者 大阪：釜ヶ崎・日雇』戦後編前期の配本である。ここには既刊の戦前期編につづく戦後の行政文書に加えて、大阪万博と前後して運動史上画期をなした全港湾建設支部西成分会結成（1969 年）から釜共闘・現闘委（1972 年）に至る期間の、公表可能な一次資料を精選することができた。しかし収録できた資料は一部にとどまる。さらに写真フィルム等の現物をふくむ断片的な史料の扱い、法的・技術的・運用上の課題があり、取り扱いには倫理的な配慮が不可欠である。そこで以上の経過を関西社会学会に報告し、地理・歴史・社会調査法、図書館情報学の視点から複眼的なアーカイブ研究を目指して、後継の研究課題に構想を引き継ぐこととした。

引用文献

- ① 青木秀男『寄せ場労働者の生と死』明石書店 1989 年
- ② 八木正『原発は差別で動く』明石書店 1989 年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 吉村智博	4. 巻 84
2. 論文標題 昭和恐慌期の失業問題と山口正：『失業の研究』を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学人権問題研究室紀要	6. 最初と最後の頁 A1 - A14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00027275	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉村 智博	4. 巻 83
2. 論文標題 大阪市社会部と山口正：『社会事業研究』を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学人権問題研究室紀要	6. 最初と最後の頁 A1 - A28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00026438	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 原口剛	4. 巻 760
2. 論文標題 インフラの呪縛からの解放：寄せ場の労働を再解釈する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 3 - 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15002/00025456	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉村智博	4. 巻 3
2. 論文標題 1920-50年代大阪の不良住宅地区における社会事業 長柄地区の生活実態と北市民館の活動実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市と社会	6. 最初と最後の頁 44 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20190509-006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 櫻田和也
2. 発表標題 調査史の方法としての写真記録と個人文書 : 都市下層の視点から
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 寄せ場の運動史における植民地主義への問い : 1970年代・釜共闘の実践を中心として
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻田和也
2. 発表標題 Trans-Asian grassroots beyond the border: a hundred years.
3. 学会等名 The 4th Annual Conference of Network Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻田和也
2. 発表標題 戦後大阪の労働者文化とその表現
3. 学会等名 大阪府立大学公開講座「地域文化学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 吉村智博・原口剛・白波瀬達也・櫻田和也（監修）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 近現代資料刊行会	5. 総ページ数 2223
3. 書名 昭和期の都市労働者〔2〕大阪：釜ヶ崎・日雇《図書資料編》第2回配本（戦後編前期）セット1	

1. 著者名 吉村智博・原口剛・白波瀬達也・櫻田和也（監修）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 近現代資料刊行会	5. 総ページ数 2342
3. 書名 昭和期の都市労働者〔2〕大阪：釜ヶ崎・日雇《図書資料編》第2回配本（戦後編前期）セット2	

1. 著者名 吉村智博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 176
3. 書名 大阪マージナルガイド	

1. 著者名 川野英二・佐賀朝・櫻田和也ほか計21名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 496
3. 書名 阪神都市圏の研究	

1. 著者名 鈴木 武; 原口 剛; 森田 和樹; 板垣 竜太	4. 発行年 2023年
2. 出版社 同志社コリア研究センター	5. 総ページ数 326
3. 書名 翻訳と連帯 : ある寄せ場労働者の「抗日パルチザン参加者たちの回想記」翻訳の軌跡	

〔産業財産権〕

〔その他〕

鈴木武編訳『翻訳と連帯』電子版 https://do-cks.net/works/publication/korea05/ 中島敏フォトアーカイブ・解題 https://project.log.osaka/nakajima/ 釜ヶ崎史料アーカイブ https://project.log.osaka/kamagasaki/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉村 智博 (YOSHIMURA TOMOHIRO) (70599282)	大阪公立大学・都市科学・防災研究センター・都市科学・防災研究センター特別研究員 (24405)	
研究分担者	原口 剛 (HARAGUCHI TAKESHI) (40464599)	神戸大学・人文学研究科・准教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------